

6月15日林野庁発表:「10年間で1億本の植樹を国民運動として推進」等々

6月15日、林野庁は、森林、林業、木材産業による「グリーン成長」をめざして、新たな「森林、林業基本計画」を発表しました。当会に関係する項目を抜粋しました。

第2 森林の有する多面的機能の発揮並びに林産物の供給及び利用に関する目標

2 森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

(4) 森林の誘導の考え方

イ 誘導の考え方

(イ) 森林の区分に応じた誘導の考え方

a 育成単層林 現況が育成単層林となっている森林のうち、林地生産力が比較的高く、かつ、傾斜が緩やかな場所に位置するものについては、木材等生産機能の発揮を期待する育成単層林として確実に維持し、資源の充実を図る。この場合、短伐期や長伐期など多様な伐期での伐採と植栽による確実な更新を図る。伐採に当たっては、土砂の流出を招かないよう、搬出方法の選択、保護樹帯の設置等を適切に行う。また、水源涵養機能又は山地災害防止機能／土壌保全機能の発揮を同時に期待する森林では、伐採に伴う裸地化による影響を軽減するため、自然条件等に応じて皆伐面積の縮小・分散や、間伐の繰り返しによる伐期の長期化、植栽による確実な更新を図る。また、急傾斜の森林又は林地生産力の低い森林については、育成複層林に誘導する。この場合、水源涵養等の公益的機能と木材等生産機能の発揮を同時に期待する森林では、自然条件等に応じ、帯状又は群状の伐採と植栽による確実な更新により効率的に育成複層林に誘導する。林地生産力が低く公益的機能の発揮のため継続的な育成管理が必要なその他の森林は、自然条件等に応じて択伐や帯状又は群状の伐採と広葉樹の導入等により針広混交の育成複層林に誘導する。なお、快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能及び文化機能の発揮を期待する森林では、上記の考え方によらず、景観の創出等の観点から、間伐等の繰り返しにより長期にわたって育成単層林を維持するか、又は自然条件等に応じ広葉樹の導入等により針広混交の育成複層林に誘導する。また、希少な生物が生育・生息する森林など属地的に生物多様性保全機能の発揮が求められる森林においては、天然力を活用した更新を促し、針広混交の育成複層林又は天然生林に誘導する。



この項目は、当会が筑波山神社林内で行っている「筑波山水源の森づくり」に関連します。筑波山神社としては、針葉樹林を経済性のある森としての機能より、自然林に戻す事を希望しており、間伐後、筑波山の自然生態系に適った広葉樹を植えてとして災害に強く水源の森としての機能向上を目的とする、針広混交林に再生されています。

←残された既存のスギも、新たに植えて生長した広葉樹も共に健全な筑波山神社林の一部・針広混交林

第3 森林及び林業に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策

1 森林の有する多面的機能の発揮に関する施策

(3) 再造林の推進 ア 優良種苗の安定的な供給

再造林の実施に不可欠な優良種苗を確保するため、林木遺伝資源の収集・保存、第3世代精英樹等の品種開発、採種園・採穂園の整備、種苗生産者に対する育苗技術の指導や生産施設整備、収入保険への加入促進などの取

組を進める。特に造林の省力化や低コスト化を図る観点から、成長に優れたエリートツリー等の種苗、伐採と造林の一貫作業に必要なコンテナ苗の生産体制を整備することとし、原種苗木の増殖技術の開発、特定母樹由来の苗木の増産、コンテナ苗の生産技術の 22- 17 - 標準化等を進める。

針葉樹林を針広混交林に誘導していくためには、当然広葉樹の苗の増産が必要となるでしょう。今後、具体的にどのように広葉樹の容器苗を増産するのか、現段階では示されていませんが、当会の行う育苗が少しでも、この施策に関連づけられることを希望します。

→新しい圃場で管理されるの苗



(12) 国民参加の森林づくり等の推進

イ 国民参加の森林づくり

多様な主体による植樹など森林づくり活動の促進に向けては、企業・NPO等のネットワーク化、全国植樹祭等の緑化行事の開催を通じた普及啓発活動の促進に努める。また、国有林におけるフィールドや情報の提供、技術指導等を推進する。これらの取組や森林整備の推進等により、10年間で1億本植樹を目指す国民運動を展開していく。森林環境教育等の充実を図るため、幼児教育や学校教育等における森林空間を活用した教育プログラム、人材育成の効果的な方策などの情報提供等を行う。また、関係府省や教育機関等とも連携し、小中学校の「総合的な学習の時間」等における学校林活動などを推進する。



地球温暖化、気候変動への対策として炭酸ガスを固定する植樹は必要不可欠なものです。「全国緑化行事発祥の地」での活動で分かるように、昭和9年からの植樹は、荒廃する日本国土や疲弊する国民救済の意味がありましたが、現在の森づくりの必要性は、地球環境改善が目的です。世界を挙げてSDGsが叫ばれる中、植樹を国に任せるだけでなく、国民の参加を推奨しているのです。そして、幼い時からの環境教育の必要性も書かれています。当会の育苗、植樹、啓発活動など益々重要性を増すことでしょう。

←(例) 筑波山水源の森づくり植樹祭

(13) 国際的な協調及び貢献

国際的な協調の下で、持続可能な森林経営に向けた取組を推進し、SDGsや国連森林戦略計画等の国際目標の実現を図る。このため、二国間・地域間・多国間での政策対話、気候変動や生物多様性に関する枠組みの実施ルールや目標設定に係る議論等に積極的に参画し、貢献する。また、開発途上地域における森林減少・劣化の抑制、山地災害の防止、違法伐採対策等に貢献するため、我が国の知見や人材等を活用し、国際機関等のプロジェクトへの人材派遣や資金拠出、民間企業等によるREDD+(レッドプラス)活動注の促進、海外に適用できる森林技術の開発・普及などの国際協力を推進する。

国内のみならず、国際的視野で森林関連活動が必要であるとのこと。これら林野庁の推進する活動の活動資金は、国土緑化推進機構、緑の募金などから賄われる予定で、国土緑化推進機構は、「緑の募金活動」で広く国民や企業から募金を募っています。

今回、藤原理事が関係するケニア国ナイロビ近郊で中学生が植樹を通して環境課題を学ぶプロジェクトを緑の募金に申請、7月1日交付金の決定通知が届きました。

→(例) 中国雲南省昆明市海口市海口林場植樹



オリエンタル技研工業株式会社 当会圃場で育苗研修

研究施設・設備の総合エンジニアリング企業として、研究施設の設計、施設の老朽化や研究テーマ変更に伴うリノベーション、研究空間を構成する研究設備機器の開発・製造を主軸事業とし、研究環境の構築を総合的にプロデュースするオリエンタル技研工業株式会社(本社:東京都千代田区神田錦町 2-9 コンフォール安田ビル、プロダクションセンター:つくば市作谷 3455-5)は、当会の活動に賛同、ESGs活動の一環として育苗や植樹を体験、社員に広報することになりました。6月8日、つくばプロダクションセンター内にて、同センター勤務の社員に向けて、石村章子理事長が、急速に悪化する地球環境、SDGsの具体的な内容、当会の育苗、植樹活動全般について講演を行いました。また、この様子は、オンラインで東京本社の方々にも放映されました。

続く7月10日、活動第二弾として、社員有志18名(含幼児6名)が、当会圃場を訪れ、昨年11月播種のアカガシやウラジロガシの発芽苗をポットに移植する体験をしました。普段、特に気にもとめることもないどんぐりが、発芽して苗になり、「宮脇方式」で植え込むと、本来100年かかる森づくりも、10年20年のスパンで森を形成していく過程の第一歩の学習会です。子供達は土に触れ、トカゲやカマキリの赤ちゃんなど発見して大喜び。

第三弾は10月3日開催の筑波山水源の森づくりに参加し、育てた苗を実際に植えます。勿論、この日に鉢上げした苗がすぐ植えられるわけではなく、3年近く圃場で管理され植樹適期を迎えた苗です。大きな森をつくるためには、しっかりとした基礎作りが必要です。破壊するのは簡単ですが、創造には時間がかかります。そんなことをSDGs活動から学んで頂ければと思います。



土づくり:草間理事手製の篩い機で土篩い



土づくり:土、堆肥、肥料等の切り返し



発芽したアカガシの根の様子



苗を傷つけぬように、一本一本鉢に移植する



出来上がったポット苗



作業を終えてポット苗と共に記念撮影

助成金が交付されました

1. ケニア国ナイロビ近郊に於ける中学生の植樹活動を通して現在の環境課題を学ぶプロジェクトが緑の募金(国際緑化推進センター)により採択され、1,260,000 円の助成金が交付されます。当会理事で横浜国立大学名誉教授の藤原一繪先生のケニアでの長年の森づくりの実績と人脈から、プロジェクトが成立しています。7, 8, 9 月に現地では、12 月には日本からの植林体験ボランティアを募集して、現地で中学生とともに植樹をします。詳細が決まりましたら、ご連絡します。
2. 茨城県産木材を使用するのあずまづくり(当会圃場:つくばみらい市狸穴 1402-1)への交付金が決定される方向であることとの連絡が茨城県南事務所からありました。詳細が待たれます

保育園児、圃場で遊ぶ



圃場には、保育園児達が遊びに来ます。園庭が狭かったり、散歩する道路が狭くて危ない事もあることから、広くで危険のない圃場の空き地を使ってもらっています。子供たちも大喜びで、今は水遊びが大好き、自然な形で土に触れたり、圃場を管理するシルバー会員と交流したりと、幼いころから自然環境の大事さを学んで欲しいと思っています。



春先のジャガイモ掘りで、近くのふれあい第2保育園児から素敵なお礼のお絵かきを頂きました。



さすが保育園の先生！圃場でオケケを見つけ
て園児も興味津々



→初めての畑でのジャガイモもまずまずの収穫でした。今度はトウモロコシを植えて訪れる方々に喜んで頂きたいと圃場管理のメンバーも楽しみで作業をしています

←圃場入り口に植えたマリーゴールド、夏の日差しと共に色鮮やかになり、皆様のお越しをお待ちしています。

